

守山まるごと活性化 議事要旨

イベント名： 第1回 「A歴史・伝統文化プロジェクト 歴史伝統文化部会」 会議

日時： 令和2年7月6日（月）午後7時30分から午後9時まで

場所： 玉津会館 会議室1

参加者： プロジェクトメンバー 8名 会館1名

開催結果

内容

1. 調査内容の結果報告

● 「赤野井町」の由来について

- ①現在の赤野井町の由来は、延暦8（789）年の干ばつの際、井戸を掘って霊水を得て、これを仏前に奉った「閼伽」の清浄な水の湧く池から「閼伽井」となり、「赤野井」となった。
- ②もう一つの説は、弘仁年間矢島寺（現在の真光寺）創設後、「閼伽」（主に仏に供える清水）を奉ずるにあたり、弘法大師が小津神社に参拝のおり靈験あって杖で突かれたら清水が湧き出した池を「閼伽池」と呼び、「閼伽井」から「赤野井」となった。

→ 赤野井町釈迦堂西側の弘法大師の石碑は、近代になってから誰かが作成した。誰が作成したかはわからない。

- ・弘法大師の石碑の近くには池があるが、元々は大きい池であったが、今は小さくなっている。また、当時の位置とは異なることが分かった。この話は、人伝いに聞いたので、詳細はわからない。
- ・余談ではあるが、天神川の大きさも昔は大きかったようである。

● 「矢島町」の由来について

①「地名説」

②「人名説」

→ どちらの説が正しいのか、結論には至っていない。

- ・地域の古老に矢島町の由来について尋ねると、「地名説」を唱える人が多い。

→ 【理由】 寺院と古老との繋がりが強いこと、寺院が持つ資料である「矢島寺縁起」の教えの影響であること、などが考えられる。

- ・「人名説」については、疑問が残る点が多い。

→ 【理由】 現在の矢島町には、「矢島」という姓の人物はいない。記録上「矢島氏」が存在したとなっているが、末裔が矢島町に住んでいない。

☆推測☆

①「矢島氏」が作った「六条堤」は矢島町にとっては良いものであったが、他町からは評判が良くなく、狙われる可能性があったため、名前を変えた可能性がある。

②「矢島」姓の人が、「和田」姓の人と婚姻を結んでいるケースが多かったため、「和田」姓のルーツに「矢島氏」が絡んできているのではないかと推測される。

● 「石田町」の由来について

①「延暦寺の寺領としての荘園 玉津荘 石田村」と書かれていた。

②元享元（1321）年10月16日 信性処分状「野洲郡石田郷」地頭得点が本妙房に譲られる。

③長禄四（1460）年 浄満寺草創

石田村惣道場西宗寺として、木仏・寺号を許される。

④大永年間（1521～1528）

「往昔滋賀群某地の武士石田某なるもの故ありて族挙げて十二家此地に転住す。此時に当たりて本地は未だ他に一戸の住民なきを以て随て社寺の説あらず故に郷里即ち滋賀群某地の産土神を遷したるものなりと伝えたり。」と書かれている。

- ⑤天正19（1591）年4月 徳川家康知行目録写には、「千貳百四拾六石四斗八升石田村」との記述あり。
- ⑥関ヶ原の戦いに敗れた石田三成の家来の落ち武者が、定着したと伝えられている。その落ち武者たちが、頭領である石田三成の姓をとって、「石田村」と名付けたのではないか。

☆意見☆

- ・昔から石田町で伝えられているのは、「石田三成」に関する話であるが、調べていると多くの説が出てくる。石田町としては、「石田三成」に関する歴史が正しいとありがたい。
- ・多くの説が存在するが、それぞれが相反する内容となっているため、信頼のおけるものがどの説なのかわからない。

●「十二里町」の由来について

- ①赤野井の出村であるとか、三宅郷内十二里など、文献によって様々に書かれている。
- ②条里制の十五条十二里から、十五条がなくなり十二里になたという説も存在する。

☆意見☆

- ・「十二里」と名付けられた記録がない。
- ・条里制で「十二里」のみ、そのように名付けられたのも少し疑問が残る。
- ・名付けられた記録がないことから、条里制で場所を示す「十二里」と呼ばれるようになったのが一番有力な候補ではないか。
- ・条里制で呼ばれるようになった説以外に有力な説がない。
- ・屋号がなかったので、条里制で使用していたものを使い名前を付けたのではないか。
- ・「ムラセ」「ナカジマ」「アラキ」「ジュウニリ」姓の人が住んでいた記録はある。

2. 今後の日程について

- ・今後このテーマをまとめていく
→・テーマの設定理由
 - ・どのようにに調べたか
 - ・各説を書いていく
 - ・絵や図などを載せていく

3. 発表方法について

- ・諏訪屋敷まつりでの発表を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施するかは検討中であるので、発表方法を含めて協議を行った。
- ・展示は難しいので、データで残してはどうか。
 - ・過去に作成したものを修正し新たに作成してみてもどうか。
 - ・玉津の由来を調べて、学区の由来と町の由来をまとめてみるかどうか。

4. 次回検討事項

- ・発表方法や調査内容をどのように保存していくのかについて協議する。